

古き良き出雲市中心商店街の魅力を知ろう
—「聞き書き」を通して大学生と地域をつなぐ活動2025—

【出雲キャンパス】

教職員：林健司・高橋梢子・荒木さおり・松本祐香
学 生：石飛舞・河原李波・北村萌江・佐々木杏莉
河野仁美・小林愛実

【浜田キャンパス】

教 員：豊田知世
学 生：森原明音

活動目的

出雲市は中心市街地空洞化の課題を抱える。かつて、賑わっていた出雲市駅周辺の商店街（本町、中町、扇町、中央通り、駅通り）は情報化社会の進展、少子高齢化、大型ショッピングモールの建設の影響を受け、シャッター街と化している。ここにあった「人々の暮らし」「出雲市の賑わい」の証を残すことは歴史的価値がある。本プロジェクトでは、2022年度以降、商店街の歴史を知る方々へインタビューを行い、学生は出雲市中心商店街の歴史的価値を知り、商店街への興味・関心を高め、古き良き地域の魅力にも気づく経験をした。現代社会を生きる学生にとって、この取り組みは未来へとつながる活動でもある。今年度は、商店街で「今」を生きる人々も対象とし、商店街の今昔の物語を文章化し継承できるものとしたと考える。学生の活動が地域活性化の一役にもなり得ると考える。

出雲市の中心市街地の「今」「昔」の暮らしを知ることで、
新たな地域の魅力を発見することを目的とした。



活動の方法

「聞き書き」とは

- 話し手（語り手）から聞いた話を「聞き手」が文章にすること。
- 「語り手」が実際に「体験」した「過去」の「事実」に関する記憶を「今」語る。それを文章化すること。
- 消え去る他ないもの、痕跡としてさえ残ることのない「無名」の人々の「語り」を記録することで、歴史を一層豊かなものにする手段。（聞き学会）

2022年度は看護栄養学部看護学科の学生のみで「聞き書き」を実施したが、商店街の成り立ちや発展衰退の歴史など、地域づくりの学びにつながることを考えられ、2023年度以降は浜田キャンパス地域政策学部と共同で聞き書きを行った。



活動の内容

(1) 「聞き書き」の事前学習



出雲キャンパス、浜田キャンパスのそれぞれで、聞き書きの目的、方法、注意点などを学ぶ学習会を実施。

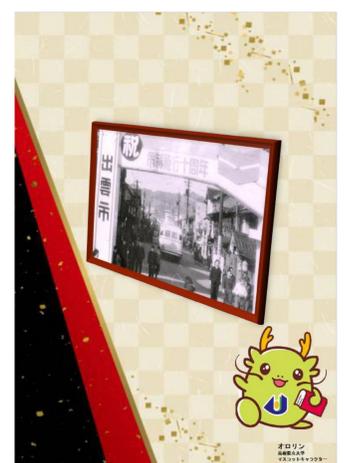


(2) 「聞き書き」の実践

今年度は3名の方に商店街のお店の場所を借りて「聞き書き」を行い、現在冊子作成を進めている



(3) 冊子の作成



(4) 現地での報告会

2月11日（水）、商店街のお店の場所を借りて、対象者、商店街の方々をお招きしてお披露目会を実施

参加した学生の感想

お話を聞き、「人と人とのつながり」の大切さを感じました。人との出会いが、目指す人生を変えていったり、思いを叶えてくれたり、誰かの人生に影響を与えたりと、さまざまな変化を起こすことができることを、改めて考えるきっかけとなりました。生まれ育った出雲で恩送りをするという話から、私自身も生まれ育った島根で何か恩送りができたら良いと感じました。今回の〇〇さんとの出会いも、互いに素敵な影響を与えられていればと強く思います。お話を聞き、「人と人とのつながり」の大切さを感じました。人との出会いが、目指す人生を変えていったり、思いを叶えてくれたり、誰かの人生に影響を与えたりと、さまざまな変化を起こすことができることを、改めて考えるきっかけとなりました。生まれ育った出雲で恩送りをするという話から、私自身も生まれ育った島根で何か恩送りができたら良いと感じました。今回の〇〇さんとの出会いも、互いに素敵な影響を与えられていればと強く思います。

お話の中で「ご一緒しましょう」という言葉がとても印象に残りました。信じてご一緒することで人々の悩みや苦しみ、喜びに寄り添うことができるのだと感じました。同じような悩みや思いを持つ人同士がその悩みや思いを共有することができる場所が必要であり、その一つが「まちの保健室」であると思いました。お話を伺う中で人と人との出会いは貴重であり人生に大きな変化をもたらすこともあると学びました。今後の生活の中で私自身も人との出会いを大切にしたいと思います。